

ごらくじきゅうけいだいいせきEちく

極楽寺旧境内遺跡

E地区

(鎌倉市No.291遺跡)

調査期間 20070522～20070627

所在地 鎌倉市極楽寺 2丁目
14-13 先

時代 中世



概要

鎌倉市では、神奈川県藤沢土木事務所による急傾斜地崩壊対策工事に伴う発掘調査が行われており、工事中発見のやぐらなども含め、一年のうちに多くの遺跡の調査が行われています。

遺跡は極楽寺から北東に延びる谷戸(馬場ヶ谷)の中ほどに位置し、隣接地は一昨年、昨年と発掘調査を行っています。これまでにやぐら1基、やぐら前面遺構、崖下遺構群、平場の発掘調査を行い、地業面、溝、ピットなどが見つかっています。

調査区はやぐら部分と、その前面に展開する平場部分に分かれます。やぐらは玄室から前庭部までが完全に遺存していました。やぐらの玄室は4.25×4.5mの方形で、北東側の側壁には竈が掘り込まれ、上半が煤けていたことからは明かりとりとして掘られたことが考えられます。前庭部からは遺物が多く出土し、壁沿いに山積するように砂岩で作られた切石の破損品が発見され、その隙間からは陶器、石鍋、鉄製品などが比較的多く出土しました。

平場部分は、やぐら前面と、それより一段高くなる調査区南端に分けられます。やぐら前面の平坦面は、おおまかに2段階の造成の状況が分かりました。ひとつは、岩盤土造成によるスロープの構築、もう一つは、岩盤を削り出して平坦面を構築した当初の造成です。スロープ上からは、やぐら前庭部の出土遺物とほぼ併行する時期の陶器類やかかわらけが出土しています。

調査区南端の平坦面に広がる黒色の有機質土からは、かわらけ溜まりが2カ所で検出され、かわらけの他にも硯片などが出土しています。



▲3号やぐら全景



▲3区4面(平場部分)全景



▲3B区1面(平場)かわらけ溜まり